

## 通期の見通し

平成 20 年度の販売電力量については、7～9月の気温が概ね平年を上回って推移したことによる冷房需要の増加などにより、平成 20 年7月に公表した想定値（2,962 億 kWh）を上回る 2,967 億 kWh（前年度比 0.2%減）を見込んでおります。

売上高については、電気事業において、販売電力量が増加するものの、燃料費調整額の特別措置の影響などにより、前回公表した想定値（連結：6 兆 500 億円程度、単独：5 兆 8,000 億円程度）を連結で 6 兆 300 億円程度、単独で 5 兆 7,700 億円程度に変更いたしました。

一方、費用面では、電気事業において、原油価格の下落などにより、燃料費の減少が見込まれます。

これらにより、経常損益は、前回公表した想定値（損失として、連結：4,250 億円程度、単独：4,800 億円程度）を変更し、損失として、連結で 3,250 億円程度、単独で 3,800 億円程度になるものと見込んでおります。

また、当期純損益は、前回公表した想定値（損失として、連結：2,800 億円程度、単独：3,100 億円程度）を変更し、損失として、連結で 2,200 億円程度、単独で 2,500 億円程度になるものと考えております。

### < 連結 >

売上高	6 兆 300 億円程度
経常損益	3,250 億円程度
当期純損益	2,200 億円程度

### < 単独 >

売上高	5 兆 7,700 億円程度
経常損益	3,800 億円程度
当期純損益	2,500 億円程度

（注）通期の収支見通しについては、柏崎刈羽原子力発電所の運転計画について、依然としてお示しできる状況にないことから、前回同様、今年度内は全号機停止していることを前提として算定しております。